

実施・活動報告書

とうきょう すくわくプログラム

1 テーマ	おいしさ (味) R6年8月 - R7年3月
2 問い	同じ野菜、果物、肉、魚でも品種が異なる事で 子ども達は何に興味を持ち、そして発見していくのか。
3 環境	そら豆「2種類」・グリーンピース・黄インゲン豆を用意し 味比べができるようにした。
4 実施・記録	2025年5月14日 (水) 10:00~11:00 2歳児クラス 「豆類の食べ比べ」
5 振り返り 共有	

おいしさ (豆類)

1

テーマの設定理由

「おいしい」とは何か？ということが「おいしい」と感じる事なのか。子どもが味わって食べるという経験を本当にしているのか？という問いから、子ども自身が「おいしさ」とは何かを探究する楽しさを知ってもらいたい。

2

準備物

- ・IH
- ・フライパン
- ・ tong
- ・包丁
- ・まな板
- ・バット

3

食材

- ・そら豆【イタリア】
- ・そら豆【千葉県】
- ・グリーンピース【熊本県】
- ・黄インゲン豆【福岡県】
- ・油
- ・塩



環境設定

1 観察

豆類は参加している全ての子ども達が常に観察できるよう人数分用意する。

2歳クラス初期なので、保育者からは「緑」「黄色」「そら豆」「グリーンピース」などの名詞・固有名詞を伝えることを意識する。

それにオノマトペや擬音語を話しに混ぜて行う。

環境設定

2 皮をむく・切る

野菜の臭い・破る時の音・野菜の種類を、能動的な作業を行うことでより体感できるようにする。

皮を破り豆を取り出す。



環境設定

3 変化の観察

各器具の名称を伝える。

調理に使う包丁やIHとフライパンに関して「触らないで」と伝えるだけでなく包丁や熱源の危険性を一緒に考えていく。

調理前と調理後の変化を1人1人が感じられるように、フライパンに入った状態で子ども達に見せて周る。この際もう一度子ども達と熱源に触れるとどうなるかを一緒に考え、注意喚起を行う。



環境設定

4 共食

大人も子どもも関係なく、1人の人間としての食べた感想をお互いに問いかけ「どうだった？」ながら共食する。

味わうために、全ての種類を一斉に配るのでなく1つずつ品種ごとに配布する。

アンケートをとり、想像やイメージと違ったのか同じだったのかなと言語表現を促す。



環境設定

5 活動後

活動が終わった後にすぐ行うことで、興味や探究を維持できる。

掲示や絵本なども用意することで活動がより深まる。



環境設定

子どもの姿

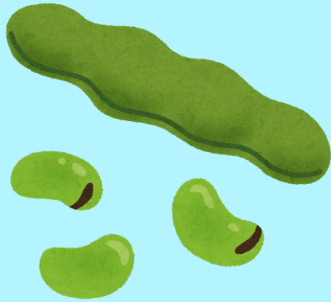


2回目の食育のテーマは「豆の食べ比べ」。
 “そらまめ” “グリーンピース” “いんげん”それぞれの豆を紹介してもらおうと
 そら先生をマネして名前を言ってみる姿が見られました。珍しい黄色いイ
 ンゲンがでてくると、「バナナ」と教えてくれる姿も。たしかに、細いバ
 ナナにも見えるね、と大人も納得。子どもの発想力に大人も立ち止まって
 寄り添ってみる、そんな時間でした。



皮から豆が出てくると、やりたいやりたい！
 と気持ちが高まったようで自分から手を伸ばして触って
 みる積極的な姿が見られました。手でコロコロところが
 してみたり、長いインゲンはポキッと折ってみたり…
 そら豆の皮は分厚くてなかなか剥けない様子。「やっ
 て」「これどうやるの？」など大人に助けてもらいな
 がら、皮を剥きました。皮から豆が出てくると、顔に近づ
 けて匂いを嗅いだり並べてみる姿も。それぞれの関わり
 方で素材との出会いを味わっていました。

わいわいさんのせいごくんが一緒に参加してくれ
 たこともあり、「わ～！ゆげだ～！！」という嬉し
 そうなお兄さんの声に釣られて、フライパンとその湯
 気により注目が集まります。
 もう一回見てみる？とそら先生が聞くと「うん」と
 頷く子どもたち。再び湯気が見えると「わあ～」と
 声が出たり、手を叩いて笑う姿もありました。



においをくんくん…



そら豆の薄皮剥きにも注目が集まります。



茹で上がった豆の匂いをか
 いでみます。
 言葉はないものの、表情から
 その真剣さが伝わってきます
 ね^^





もっと
よく見たいな…



「これなんだっけ？」とそら先生が包丁やまな板を見せると、手を立ててトントン…とマネをして教えてくれる姿がありました。言葉ですぐには出てこないけれど、前回の活動での物やその使い道は子どもたちの中にしっかり残っていたようでした。



「切ってもいい?」「炒めてもいい?」とその都度聞かれると、「いーよ!!」と元気に返して、じっと手元を見つめる様子も。はるきくんは炒めてジュー!と音がすると、驚いて耳に手を当ててみる姿もありました。

またなぎさちゃんやりのちゃんは、後ろから椅子を運んできて並べ、その上に立ちながらフライパン。を覗きみる様子がありました。



待ちに待ったお食事タイム!

この瞬間を心待ちにしていたようで、完成が近づいていることがわかると「もうたべる?(もう食べられる?)」と聞く姿も^^

そら豆→グリーンピース→インゲン豆の順番で一つずつ食べてみます。「おいしい!」とすぐに反応する子どももいれば、その見た目からなかなかフォークが伸びない様子もありました。あまり気持ちが進まない様子の子には、半分にする?と声をかけると"うん"と頷いたのでそら豆を半分に。すると自分からパクッと食べてみて…好きな味だとわかったのか、次々とフォークが進んでいました。最初の一歩って大きいよね、と改めて感じた場面です。おかわりは3種類のお豆から好きな物を選びます。最初に食べたものだからか、柔らかいからか、そして見た目が大きいことも関係しているのでしょうか、そら豆が1番人気、そして次にグリーンピース、インゲン豆、の順番で人気でした。前回あまり進まなかったしょうたくんは、今回は勢いよく食べ始め、おかわりもそら豆を選んでいました。



おかわりも「これ。」と指さして、好きだったものを選びます。そら豆とグリーンピースが人気でした。





活動後

活動後には『そらまめくんのベッド』の絵本を読みました。この絵本にはそら豆・グリーンピースのベッド（皮）意外にも、枝豆やピーナッツなど様々なベッド（皮）が出てくる場面があり、色々な種類の豆やその皮の形を見ながらジッと集中して耳を傾ける様子がありました。読み終わると「もう一回読んで。」と何度もリクエストする様子も^^



絵本を読んだあとに、もう一度探究でみんなが剥いた皮を出してみると、白いふわふわな部分をツツツ…と意識して触っている姿がたくさん見られました。「これは?」「こっちはそら豆?」とそら豆とグリーンピースの2種類の皮（インゲン豆の皮は一緒に食べてしまったので無い。）を比べる姿も。

また、絵本を思い出して再び「読んで」とリクエストしたり、いろんなベッド（皮）が出てくるシーンで実際の皮と絵を合わせてみて「これ? いっしょ!」と話してくれる様子もありました。



さらに細かくちぎってみる遊びを1時間近くくり返す様子があり、素材との出会いの時間をじっくり味わっているようでした。皮をちぎったり集めたりしながら、「ほそーい」「おっかい」「みて、ふわふわ」「かたい」「ながい」「つるつる…」などなど、子どもたちからの発見の言葉もたくさん聞こえてきました。

振り返り



第2回目の味の探究でした。前回と比べて集まりもよくなったように感じます。きっと、そら先生の姿やフライパンや包丁などの調理器具を見て前回の楽しさを思い出したこともあったのでしょう。そして、この活動が大好きな一つ上のクラスのお兄さんが参加してくれたことも大きいように感じます。楽しみに集まり、前のめりで参加するお兄さんの姿を見ることも、「何か楽しい事が始まるんじゃないか？」と期待を膨らませる大きな要因になっているようにも思います。前月は「アスパラ」、今月は「豆類」、絵本やおままごとの玩具にもあまり登場しない食材です。そのような食材こそ、このような探究を通して興味を持ち、身近に感じてもらえると思います。

坪井



そら先生の活動が始まると、ちょっとした大人の声かけで自分から切り替えて、手を洗って席で待ってみる。そんな姿が印象的でした。子どもたちがこの活動の楽しさを少しずつ感じて覚えているのだなと感じた場面でもあり、嬉しく思いました。

また、今回の食材である3つの違う種類のお豆が紹介されると、「ばなな！」と自分の記憶の中で似ている物を言ってみる姿も印象的で、大人にはない子どもならではのイメージのつながり・広がりを感じました。

わいわいさんのせいごくんの声に後押しされて「これは？」「わあ〜！」と歓声上がる場面も前回に比べて増えており、まだまだドキドキしながらも少しずつその子らしい反応が見られてきた回でした。

活動後に絵本を読んだあと、もう一度素材として余った皮を出してみると、活動時の触れ合いよりも豪快な姿が見られるなどじっくり触れ合っている姿があり、それぞれの違いを子どもたち自身がもう一度思い出しながら感じる時間となっていたように思います。

修行



第2回目は「豆の食べ比べ」でした。グリーンピース、そら豆、インゲン豆と、大人でも苦手を感じる人が多い豆をみんなパクパク「美味しい！」と食べている姿はとても印象的でした。実際に私も食べてみて、とても美味しくてびっくりしました！新鮮で旬な食べ物に子ども達が出会える体験は、改めて貴重な活動だなと感じました。活動後は、絵本を読んだ後、そら先生から頂いたそれぞれの豆の皮をじっくり観察し改めて触ってみる時間を作りました。夕方の時間、1時間以上触ったり、匂いを嗅いだりしていましたね。子ども達の集中力と探究心にとっても驚きました！「味の探究」の楽しさが徐々に子どもに伝わっていると感じ、とても嬉しく思いました。次回もとても楽しみです！

伊藤

